

小児看護学実習

【実習目的】

小児期にある対象とその家族を理解し、成長発達段階・健康段階に応じた看護ができる基礎的能力を養う。

【実習目標】

- 1 小児の特徴を理解し、成長発達を促すための援助ができる。
- 2 小児の特徴、健康障害の状態および家族の状況を踏まえ、援助が実施できる。
- 3 小児と家族の尊厳と権利を尊重した援助が実施できる。
- 4 小児と家族を取り巻く保健医療福祉・教育との連携の必要性和看護の役割が理解できる。

【構成および計画】

授業科目	実習内容	時間	単位（合計時間）
小児看護学実習	地域で生活する小児の看護	24	2（90）
	健康を障害された小児の看護	56	
	実践活動外学習	10	

<実践活動外学習の内訳>

項目	目的	内容	時間
フロアーオリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解し、実習施設や患者情報を得る。	実習の目的・目標・時間数、評価等、病棟の概要、特徴、記録・報告、受持ち患児の紹介、保育園での注意等	2
子どもの安全を守るための技術演習・カンファレンス	小児期における危険要因を明らかにし、子どもの安全対策を検討する。	子どもに起こりうる事故、患児の安全を守るための看護実践の方法等	4
患児の権利を尊重した看護実践の充実を図るためのカンファレンス	小児看護における倫理、受持ち患児の権利を尊重する援助の在り方を検討する。	子どもを看護する上での倫理の在り方、受持ち患児の権利を守るための援助方法の検討	4